27 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2020年11月8日号　　編集／毎日新聞社販売局D.クリエーションセンター

がん光免疫療法に挑む　三木谷浩史・楽天会長

10日（火）＝オピニオン面

手術、放射線、抗がん剤、免疫療法に続く「第5のがん治療」として注目を集める「光（ひかり）免疫療法」。このほど薬剤と医療機器が厚生労働省の承認を受けました。この治療法を開発した製薬ベンチャーを率いるのは、楽天の会長兼社長の三木谷浩史さん（55）=**写真**=です。事業に乗り出した背景には、父の死があったといいます。医療参入の経緯から、今後の見通しを聞きました。

論点　性暴力の根絶に向けて　伊藤詩織さん

11日（水）＝オピニオン面

自身の被害を公表し、国内で性暴力告発の流れをつくったジャーナリストの伊藤詩織さん（31）=**写真**=が今年9月、米タイム誌の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれました。運動に参加するとともに、ジャーナリストとして国内外で積極的に活動。当事者としての思いや同じ苦しみを抱える人へのメッセージ、法や社会の課題について聞きました。

特集ワイド　従軍体験記「傷魂」を復刊　バイオリニスト、黒沼ユリ子さんが語る

9日（月）＝夕刊特集ワイド

音楽評論家で元武蔵野音大教授の宮沢縦一氏が終戦直後に書いた従軍体験記「傷魂」という書籍があります。戦時中に36歳で入隊し、若い下級兵士に殴られ、最後は飢餓の中、フィリピンの密林で仲間に捨てられた過酷な日々がつづられていました。この体験記が今夏、74年ぶりに復刊されました。復刊したのはバイオリニストの黒沼ユリ子さん（80）です。「若い人に読んでもらいたい」との思いが込められています。

不倫「リンチ」過熱する社会　金子元議員が問う「許すチカラ」

13日（金）＝くらしナビ面

有名人の不倫が大々的に報道され、批判を浴びるのはなぜでしょうか。自身も元衆院議員で、夫が不倫スキャンダルを理由に衆院議員を辞職した経験をもつ金子恵美さん=**写真**=は、そうした風潮について「完璧な人なんていないのに、失敗を許さない社会でいいのでしょうか」と疑問を投げかけます。背景とともに説き明かします。

竹橋の窓辺から　編集後記

10月23日に、毎日新聞をはじめ全国紙5紙の朝刊に同時掲載された「嵐」の広告はご覧になりましたか？　年末での活動休止の影響も相まってか、当日は朝から、電話やツイッターで注文の問い合わせがたくさん入り、大忙しでした。

新聞広告にこれだけの注目が集まることはなかなかありませんが、知恵と工夫次第ではまだまだ多くの方に手に取っていただけるかもしれない。うれしさとともに、そんなことを考えさせられた1日でした。（高橋将平）

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。